

平成 18 年度 秋期 上級システムアドミニストレータ 午後 解答例

この解答例は、独立行政法人 情報処理推進機構 情報処理技術者試験センターが公表しているものです。著作権は、同センターにありますので、その点ご注意ください。

問 1

設問 1

- (1)・社内専用の画面を用意して、店舗ごとの在庫や納期などを確認できるようにする。
 - ・インターネットを用いて、店舗ごとの在庫や納期などを電子メールで問い合わせる。
- (2)・問合せ情報を商品別・技術カテゴリ別に分類し、検索できる FAQ を作成する。
 - ・商品の機能別、仕様別のノウハウ情報をデータベースに蓄積し、検索できるようにする。

設問 2

- (1)・問合せの回答に、顧客の近隣の店舗及び回答内容に詳しい店員の情報を入れる。
 - ・店舗で使えるチケットを、Web サイト上で発行する。
 - ・インターネット購入で取得したポイントが店舗でも使えるようにする。
 - ・インターネット販売の商品を店舗で受け取れるようにする。
- (2)・店舗でメンバ登録する際の記入用紙にメールアドレス記入欄と登録確認欄を設けて、メンバ登録する。
 - ・キャンペーンの案内にインターネット登録案内を入れて、メンバ登録を勧める。
 - ・店舗に設置したインターネット端末で、顧客がインターネットを利用できるようにする。

設問 3

- ・インターネットで情報提供した商品を、メンバ顧客が店舗で購入したかどうかを調査する。
- ・メンバ顧客が店舗で商品を購入した際に、そのきっかけをヒアリング調査する。

講評

問 1 では、インターネットを利用した販売促進にかかわる業務改善について出題した。全体として、正答率が高かった。問題文で設定した状況などを踏まえていない解答も多く見られた。問題文をよく読んで、問題文に即した解答をしてほしい。

設問 1 では、“FAQ を作る”、“情報のデータベースを整備する”といった単なるシステムの整備を記述した解答も見られた。店員が効率よく対応するために必要なシステム機能を具体的に解答することを求めた。

設問 2(1) は、インターネット活用の改善案について出題した。“店舗で割引する”、“店舗でポイントを発行する”といった、店舗単独での改善案の解答が多く見られた。インターネット活用の改善案についてという、設問の趣旨に沿った解答をしてほしかった。

ビジネスモデルを変革するに当たって、全体としての最適ソリューションを示すようにしてほしい。

*

問 2

設問 1

(1)

- ・ 営業所の倉庫スペースが手狭になっている問題
- ・ 営業所の事務担当が発注や在庫管理に費やす時間が増えている問題
- ・ 注文を受けた際に、欠品で納期が遅れる問題

(2)・ 各営業所の売れ筋商品の在庫を管理する機能

- ・ 各営業所への出荷伝票を作って、最適な量を出荷指示する機能

設問 2

(1) 古い商品を発注していた顧客に同じ薬効の新商品情報を提供し、商品の切替えを勧める。

(2) 新しいタイプの商品販売に影響を受ける既存商品を洗い出し、影響を予測して発注点と発注量を見直す。

設問 3

- ・ 顧客の発注情報を分析し、必要と思われる時期に顧客に確認して受注する。
- ・ 顧客と L 社をオンラインで結び、在庫管理を L 社で行い、計画的に納品する。
- ・ 委託販売形式（VMI 方式）とし、在庫がなくならないように L 社が補充を行う。

講評

問 2 では、卸売業者の受発注業務と在庫管理業務の改善について出題した。全体として、正答率は高かった。

設問 1(1)では、異なる視点から二つの問題点を答えることを求めたが、同じ視点から似たような問題点を挙げた解答も多く見られた。(2)では、〔物流センタ設置を中心とする改善案〕の(4)以外に追加すべき機能を答えることを求めたが、(4)と同じような解答や、(4)を修正するような解答が多かった。

設問 3 は、自社だけにとどまらず、顧客（医療機関）との関係を考慮した解決策について出題したが、L 社の商品配送業務の効率の視点だけからの解答が多く見られた。

自部署だけでの改善にとどまらず、他部署や他社の協力を得ることによって課題を解決する幅広い視点をもってほしい。

**

問 3

設問 1

(1) 構成 - 企業の技術力、販売力、経営者の能力などの評価項目

評価方法 - 評価項目ごとに点数をつけて評価し、重み付けして総合的に評価する。

(2) 評価結果と企業の売上高や利益の伸びとの間の相関

設問 2

りん議書データを本店融資部に回すワークフロー機能

設問 3

(1) 前回の融資との比較結果によって渉外係に顧客対応をゆだねる判断の基準

- (2)・ 前回融資した際の決定条件と比較して融資の可否を判定する機能
- ・ 前回融資した際の決定条件との比較を行う機能
 - ・ 前回の融資内容や決定条件を検索できる機能

設問 4 財務指標から求めた顧客ランクに、売上高や利益の増加率実績を加味する。

講評

問 3 では、銀行の融資業務の改善について出題した。全体として、正答率は低かった。
設問 2 は、単にりん議書作成をシステム化する、又はりん議書を電子化するという趣旨の解答が多く見られた。それによって、現状の問題点をどう解決するのかを具体的に解答してほしかった。
設問 3(1)は、繰り返し融資する場合に専任の融資受付担当者が対応することについては、問題文の中で施策として書かれていたにもかかわらず、そのことを記述した解答が見られた。不適切な融資を防ぐために、渉外係との分担で規定すべきことを考えてほしかった。業務上の施策が有効であるためには、どのようなルールや手順が必要となるか、様々な視点から検討するようにしてほしい。

* ----- *

問 4

設問 1

- ・ 基本契約の締結から業者登録までをワークフロー化し、業者登録時に基本契約書の有無を確認する。
- ・ 購買システムに 2 社以上の見積りの概要か、例外時の理由の入力を必須とし、発注時に確認する。

設問 2

- (1) 同じ業者で同じ請求書番号の支払申請の入力を受け付けない機能
- (2) 各部署が検収結果を入力しないと支払申請できないようにする機能

設問 3

問題点 - 支払申請と確認を同じ課員が行う場合があり、不正やミスを防げない。
防止策 - 支払申請者とは別の課員が確認するプロセスに変更する。

講評

問 4 では、購買業務の内部統制の整備について出題した。高得点を取得した解答もあったが、内部統制やリスク管理の概念を理解していないと思われる、得点の低い解答もあった。また、問われていることに的確に答えていない解答も多かった。

設問 1 は、“何を、どの時点で確認すればよいか。システム機能と併せて述べよ”と問うていたが、確認すべき時点を明示していない解答や、必要となるシステム機能について全く触れていない解答が多かった。

設問 3 は、経理課員が購買する場合のプロセス上の問題点を問うていたが、購買課員の問題点や、問題文で設定した状況などを踏まえていない一般的な問題点を記述している解答が多かった。

業務プロセスのどこにどのようなリスクがあるのかを把握し、分析するようにしてほしい。

＊ ＊ 平成 1 8 年度 秋期 上級システムアドミニストレータ 午後 解答例 ＊ ＊
示現塾 プロジェクトマネージャ・テクニカルエンジニア（ネットワーク）など各種セミナーを開催中！！
開催日、受講料、カリキュラム等、詳しくは、<http://zigen.cosmoconsulting.co.jp> 今すぐアクセス！！

注：この解答例に関するメールでのご質問には、応じかねます。あしからずご了承ください。